

令和元年度大津市男女共同参画に関する  
市民意識調査結果について

## 【調査の概要】

調査目的、調査対象、回収結果、報告書の見方

## 【調査の結果概要】

1. 日常の家事分担について……………P4
2. 「男性は仕事、女性は家庭」という考えについて……………P5
3. 女性の働き方について……………P6
4. 女性が仕事を続けていくことについて……………P7
5. 夫婦や恋人・パートナー間での暴力について……………P8
6. 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について……………P9
7. 男女共同参画社会の実現に向けて、行政で力を入れていくべきことについて  
……………P10

# 男女共同参画に関する市民意識調査 結果概要

## 1. 調査目的

大津市では、「大津市男女共同参画推進計画（第3次計画 おおつ かがやきプランⅢ）」を策定し、男性と女性が対等なパートナーとして認め合い、あらゆる分野に参画し、喜びも責任も分かち合う男女共同参画社会の実現を目指した取り組みを進めています。このたび、今後作成する計画の基礎資料とするために、アンケート調査を実施しました。

## 2. 調査対象

■調査対象者：満18歳以上の市民2,000人

## 3. 回収結果

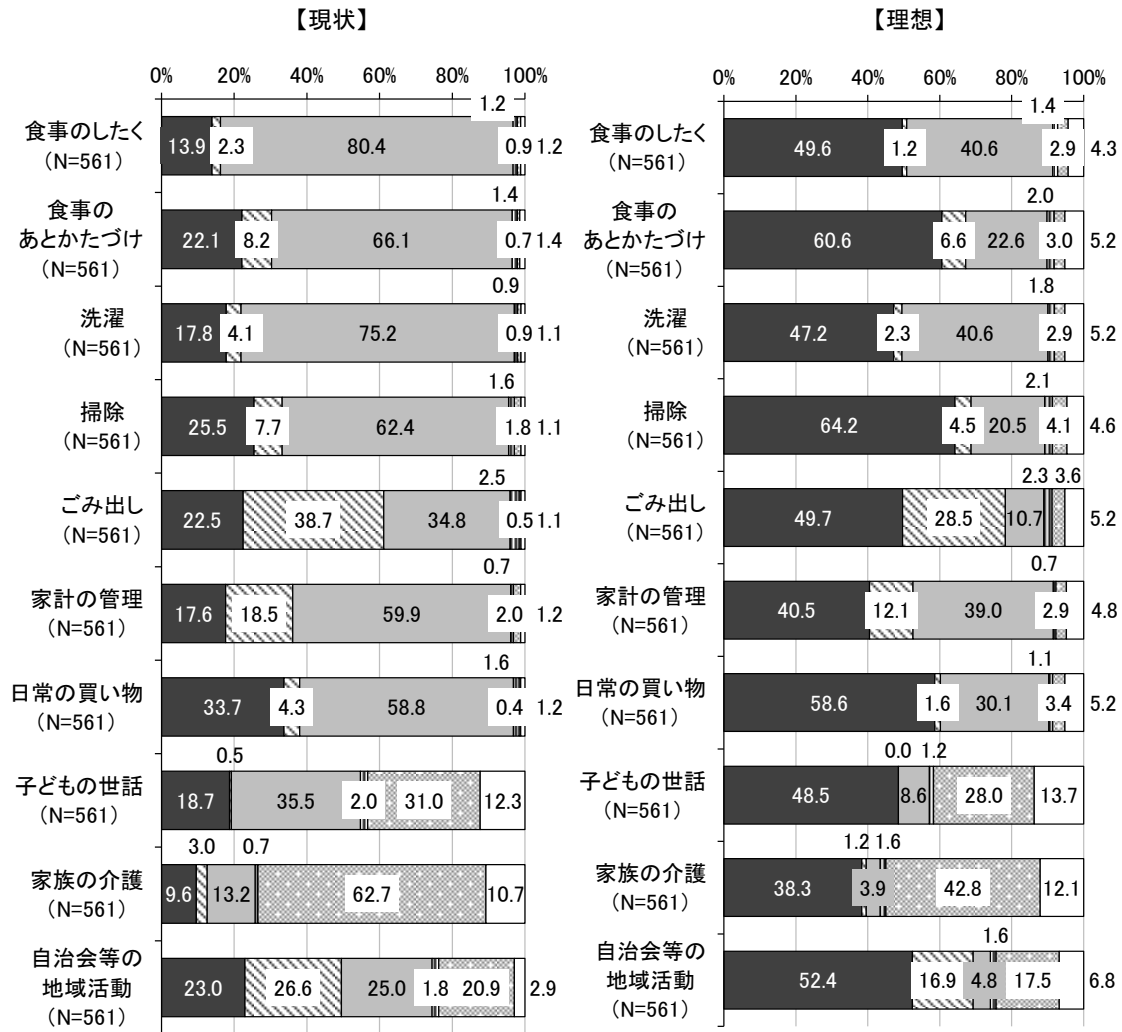
調査対象者数（配布数）	有効回収数	有効回収率
2,000件	774件	38.7%

## 4. 報告書の見方

- 回答結果の割合「%」は、有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- 図表中の「N（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。

# 1. 日常の家事分担について

日常の家事分担について、【理想】は「家族の介護」を除いて「夫婦共同」がそれぞれ最も高くなっていますが、【現状】は「ごみ出し」「家族の介護」「自治会等の地域活動」を除いて「主に妻」がそれぞれ最も高くなっています。

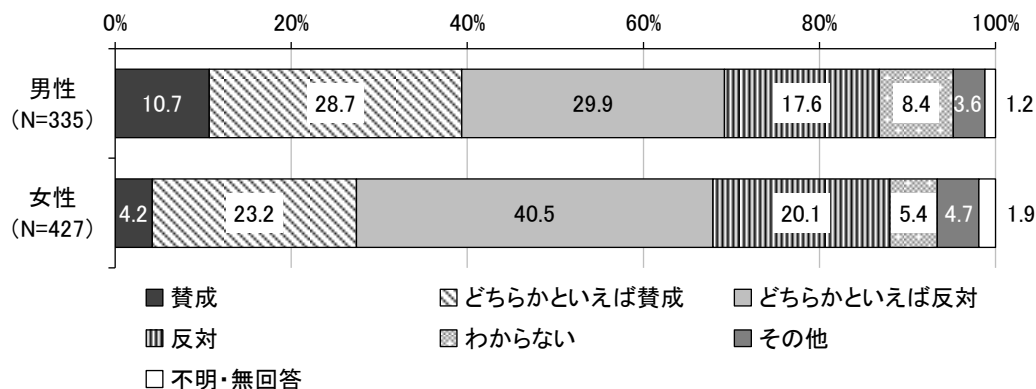


■ 夫婦で共同 □ 主に夫 ▨ 主に妻 ▩ 夫と妻以外の家族 ▤ その他・ナシ □ 不明・無回答

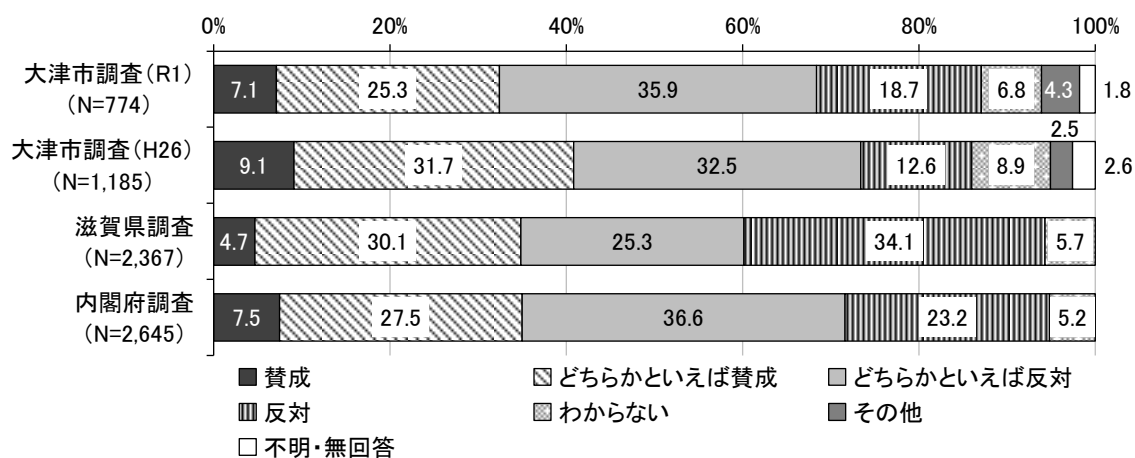
## 2. 「男性は仕事、女性は家庭」という考えについて

「男性は仕事、女性は家庭」という考えについて、男女ともに「どちらかといえば反対」が最も高くなっています。また、『反対』（「どちらかといえば反対」「反対」の合計）は男性で47.5%、女性で60.6%となっています。

過去調査と比較すると、『反対』はR1調査で54.6%、H26調査で45.1%と9.5ポイント増加しています。また、『反対』は県調査で59.4%、内閣府調査で59.8%となっています。



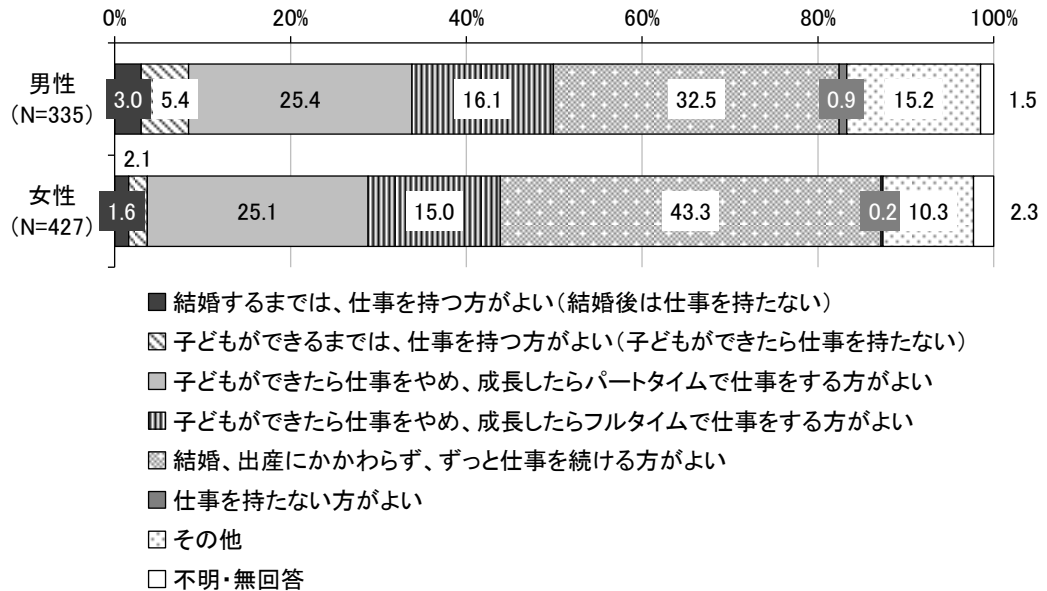
### 【過去調査、県・内閣府調査（令和元年度）との比較】



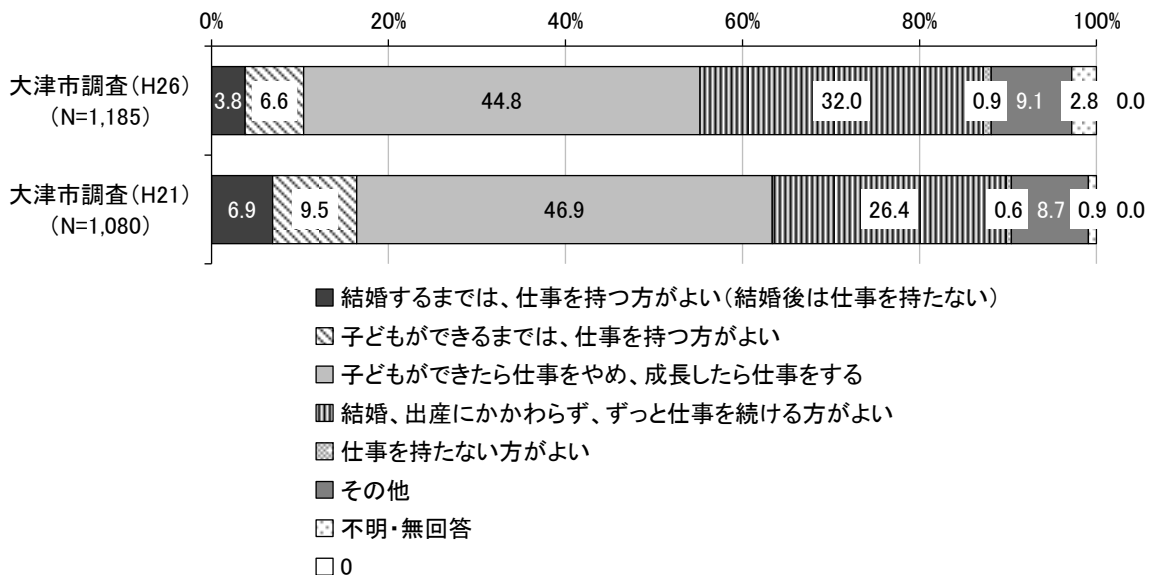
※滋賀県・内閣府調査では「その他」「不明・無回答」の回答はなし。

### 3. 女性の働き方について

女性の働き方について、男女ともに「結婚、出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい」が最も高くなっています。「結婚、出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける方がよい」は男性で32.5%、女性で43.3%となっています。

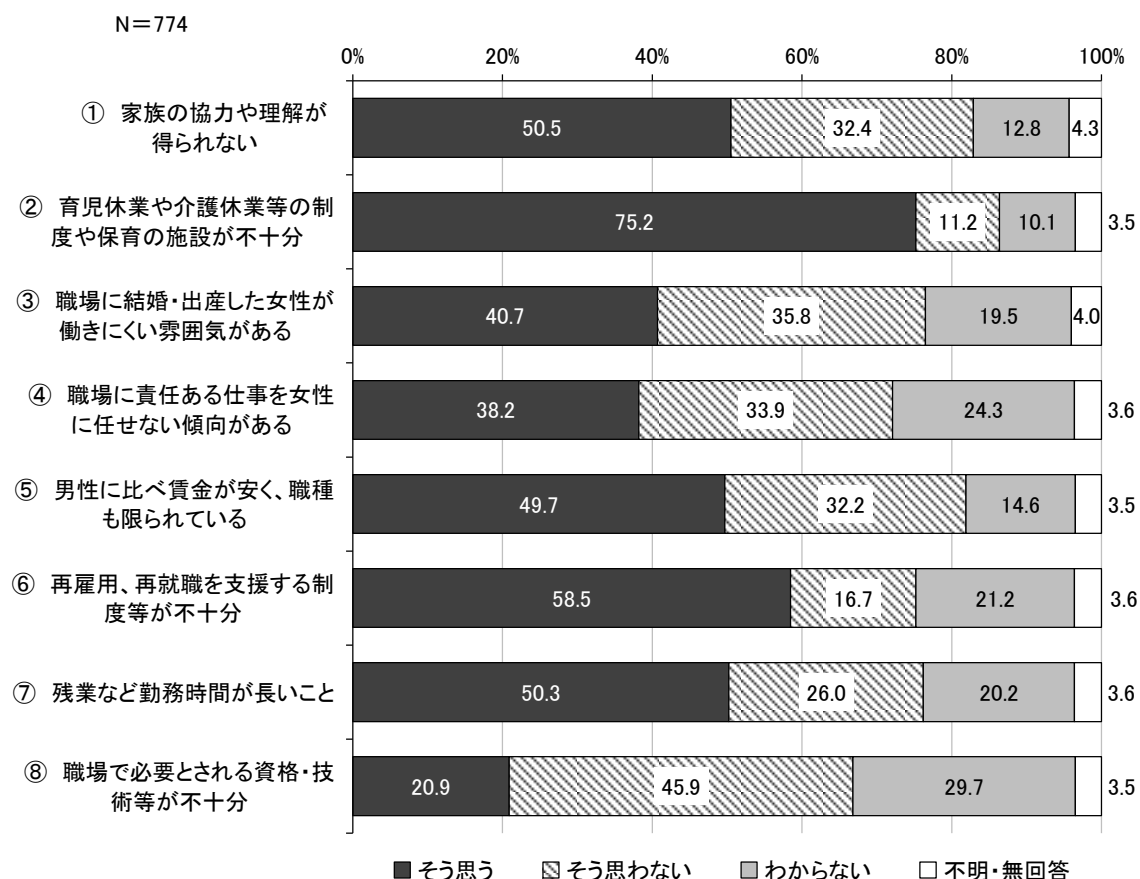


【参考：過去調査】



## 4. 女性が仕事を続けていくことについて

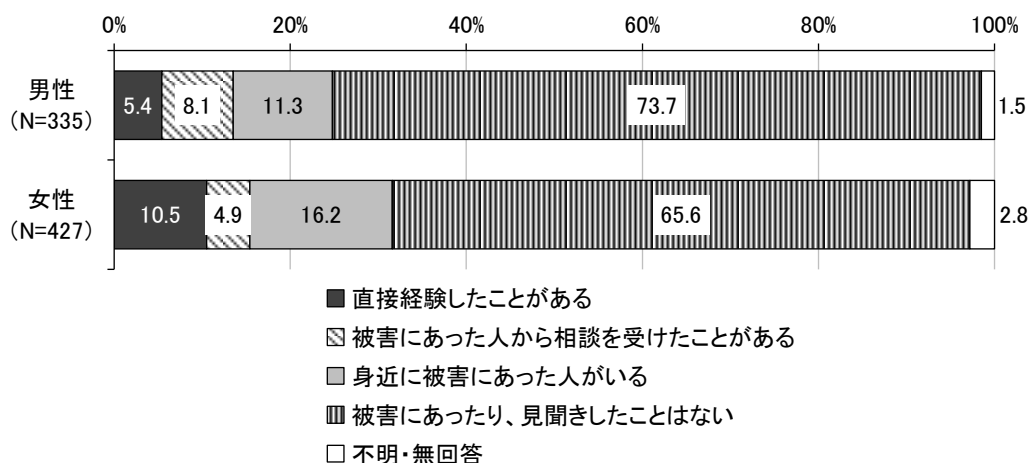
女性が仕事を続けていく上で支障になっていると思うことについて、【育児休業や介護休業等の制度や保育の施設が不十分】で7割台、【家族の協力や理解が得られない】【再雇用、再就職を支援する制度等が不十分】【残業など勤務時間が長いこと】で5割台が「そう思う」と回答しています。



## 5. 夫婦や恋人・パートナー間での暴力について

夫婦や恋人・パートナーの間での暴力について経験したり、見聞きしたことがあるかについて、「直接経験したことがある」は男性で5.4%、女性で10.5%となっています。

夫婦や恋人・パートナーから身体的・心理的・性的な暴力(DV等)を受けたことのある人がとった対応について、「相手に抗議した」が最も高くなっています。一方、「相談しなかった」は全体で28.1%となっています。



調査	割合
R1 調査	8.3%
H26 調査	6.2%

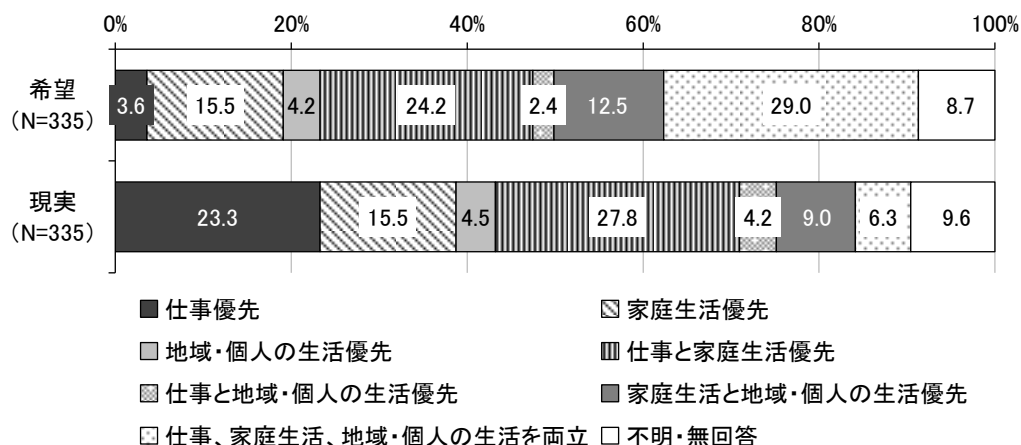
上段:件数 下段:%	合計	相手に抗議した	警察に連絡・相談した	公的な相談窓口(電話相談等)に相談した	民間の機関に相談した	弁護士等に相談した	上司・先生等に相談した	家族に相談した	友人・知人に相談した	相談しなかった	不明・無回答
全体	64 100.0	24 37.5	1 1.6	3 4.7	2 3.1	2 3.1	2 3.1	18 28.1	9 14.1	18 28.1	10 15.6
男性	18 100.0	6 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.6	1 5.6	0 0.0	3 16.7	8 44.4
女性	45 100.0	18 40.0	1 2.2	3 6.7	2 4.4	2 4.4	1 2.2	17 37.8	9 20.0	14 31.1	2 4.4



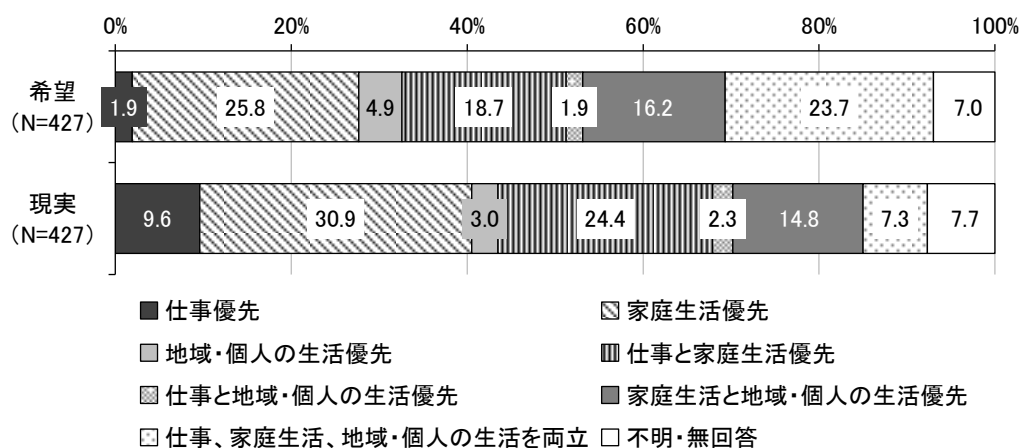
## 6. 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について

「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、男性の【希望】では「仕事、家庭生活、地域・個人の生活を両立」が29.0%、【現実】では「仕事と家庭生活優先」が27.8%と最も高くなっています。女性は【希望】【現実】ともに「家庭生活優先」が最も高く、それぞれ25.8%、30.9%となっています。

【男性】

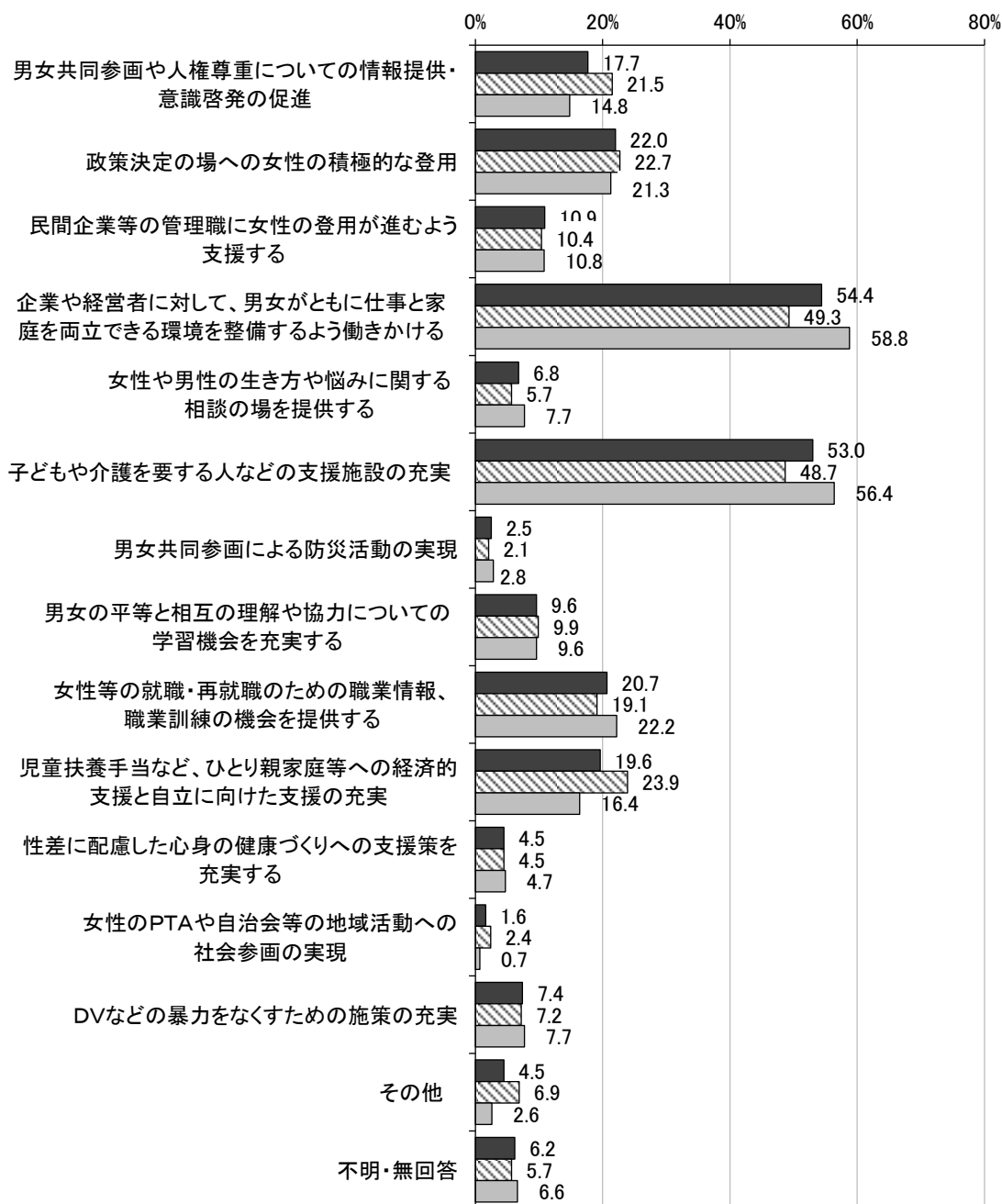


【女性】



## 7. 男女共同参画社会の実現に向けて、行政で力を入れていくべきことについて

男女共同参画社会の実現に向けて、行政で力を入れていくべきことについて、全体で「企業や経営者に対して、男女がともに仕事と家庭を両立できる環境を整備するよう働きかける」が54.4%と最も高く、次いで「子どもや介護を要する人などの支援施設の充実」が53.0%となっています。



■ 全体 (N=774)   ■ 男性 (N=335)   ■ 女性 (N=427)